

新海拓郎

1. 事業実施の目的

博士論文執筆のための調査・研究活動

2. 実施場所

熊本県埼玉県加須市ほか

3. 実施期日

平成 31 年 2 月 8 日（金）から 2 月 10 日（日）

4. 成果報告

●事業の概要

本調査においては主に以下の 3 点について調査を行った。①埼玉県水産研究所の訪問、②埼玉県内の養魚場における聞き取り調査、③文献の渉猟。

1) 埼玉県水産研究所

2 月 8 日に埼玉県水産研究所を訪問した。埼玉県内における金魚を中心とした観賞魚養殖の現状、養殖業において水産研究所の担う役割について聞き取り調査を行った。また、水産研究所内の施設を見学し、現在、水産研究所で行っている研究事業についてご教授いただいた。

2) 埼玉県・東京都の金魚業者での調査

2 月 9 日および 10 日に埼玉県および東京都にある養魚場・小売店 3 か所を訪問した。養魚場①にて埼玉県の金魚養殖の現状に関するインタビューを行うとともに、養殖施設を見学しながら、金魚の生産について聞き取りを行った。養魚場②および小売店①では金魚の流通に関する聞き取り調査を行った。

以上のように、調査期間中の 3 日間を利用して、関東地方における金魚の養魚場などを訪問し、養殖業者から埼玉県の金魚養殖について、その技術・養殖施設・流通などの様々な要素について調査することができた。

3) 文献渉猟

埼玉県水産研究所、埼玉県立図書館などに所蔵されている文献資料を渉猟した。これらの資料は当該地に行くことで得ることができたものでとても貴重なものである。

●本事業の実施によって得られた成果

埼玉県は大和郡山と並び金魚の生産地として名高いが、養魚場の分布、生産品種や流通の形

態が大きく異なる。前述の通り、調査期間中の3日間を利用して、関東地方における金魚の養魚場などを訪問し、養殖業者から埼玉県金魚養殖について、その技術・養殖施設・流通などの様々な要素について調査することができた。また、当該地において貴重な文献を渉猟することができた。

戦後、埼玉県では稲田を使った黒鯉の養殖が行われていた。昭和30年代前半になると黒鯉の養殖は衰退し、試験的に金魚の養殖へと転換してきた。しかしながら、稲田養殖の金魚の品質が劣り、市場性が低いことから養魚池での養殖に切り替わってきた(埼玉県水産試験場編『埼玉県水産試験場35年史』昭和63年発行)。埼玉県で養魚を行っている養魚場①は最初の数年は黒鯉の養殖を行っていたが、錦鯉や金魚といった観賞魚の生産に転換した。東京都江戸川区から金魚養殖の技術を導入して産地として発展してきた背景があり、江戸川の技術を継承しているといえる。以上のように、埼玉県では江戸川からの技術供与と水産試験場による技術開発の両輪をもとに発展し、埼玉県では金魚養殖の技術が熟成されてきた。養魚場①では高品質の魚を維持するための飼育の方法も教授いただいた。その一例として、エサについて簡単に述べる。1年を通じて炊きエサというものを与える。炊きエサとは釜に沸かした湯に魚粉・糠などを中心とした粉状のエサを入れて炊き上げたエサのことである。このようにして炊き上げたエサを養殖池にある餌皿に置いて給餌を行う。大和郡山でも炊きエサは一般的に使われるが秋から冬の時期に限られる。現在は養魚用に販売されている配合飼料(固形のペレット)も金魚の養殖では広く使われている。養魚場①では夏場も欠かさず炊きエサを与える。夏場のエサ炊きは重労働ではあるが、良い魚を作るには重要なことであるという。

また、埼玉県養殖漁業協同組合の観賞魚市場を見学し、埼玉県の観賞魚のセリの方式について聞き取りを行い、大和郡山・弥富・江戸川区などの他の地域のセリとの違いを確認した。以上の通り、埼玉県の金魚養殖についての調査を通じて、調査者が博士論文執筆のために調査を行っている奈良県大和郡山の金魚養殖について、その特異性を明瞭化させることができた。

#### ●本事業について

本事業により経費を援助していただいたお陰で、埼玉県における金魚養殖に関する調査を執り行うことができた。今回の調査によって俯瞰的に大和郡山の金魚養殖について捉えることができ、博士論文の執筆のための大きな一助となった。本事業を認可していただいたことに感佩の意を表するとともに、専攻の先生方および担当者に御礼申し上げます。